

住宅火災の実態 データ集

- ・高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策のあり方に関する検討部会（第2回）

1. 原因別・性別・年齢区分別・死者数の推移

性別・年齢区分別 死者数（人）

※年齢不明の12人を除く

【区分1】	男性	女性
～64歳	953	432
65～70歳	446	182
71～75歳	351	174
76～80歳	366	250
81歳～	718	756
小計	2834	1794
合計	4628	

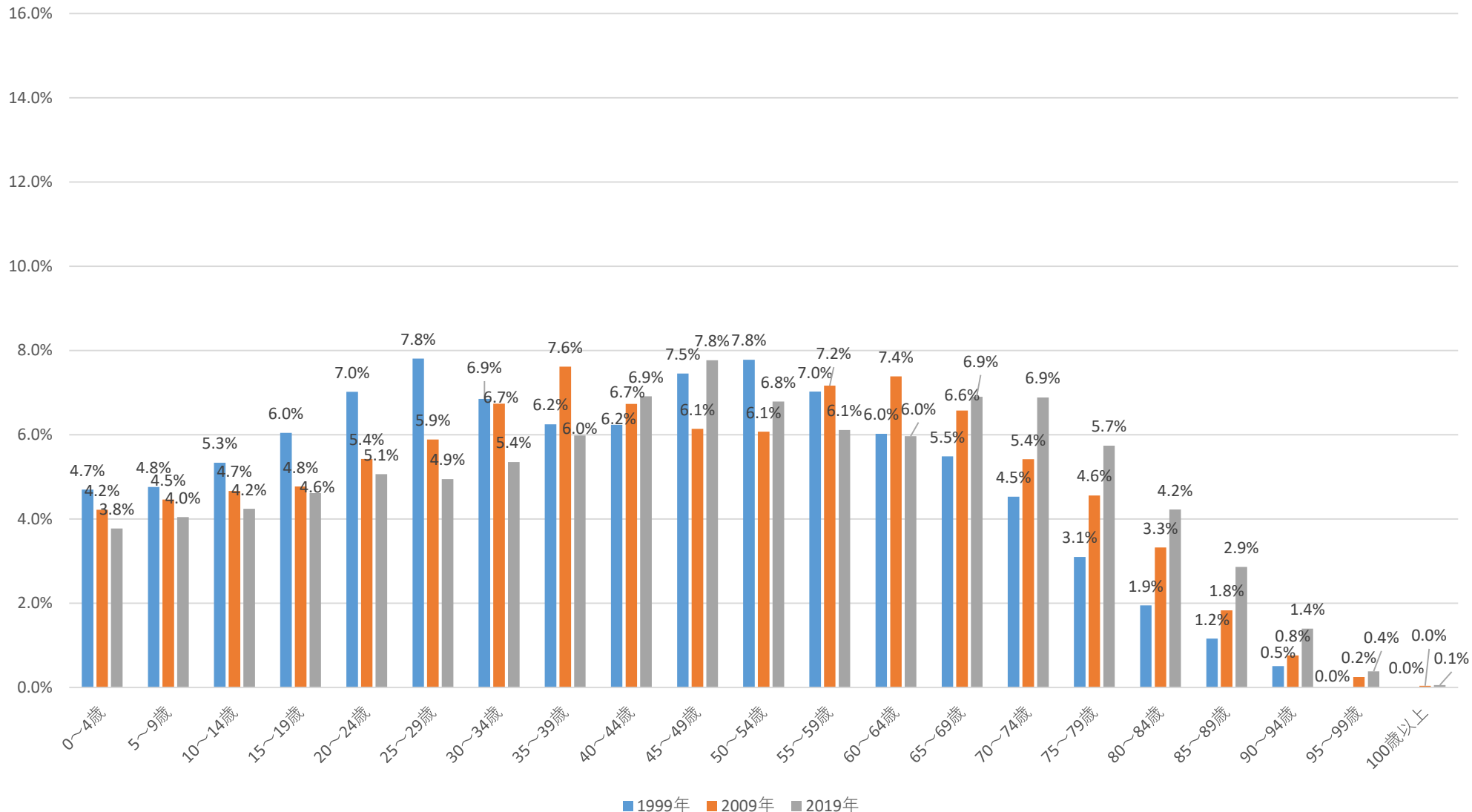
【区分2】	男性	女性
～64歳	953	432
65～69歳	368	149
70～74歳	356	170
75～79歳	375	229
80歳～	782	814
小計	2834	1794
合計	4628	

※平成26～30年の火災報告をもとに算出、以下本データ集において、ことわりのない限り同じ。



原則として、【区分2】の区分を用いて分析を行う。

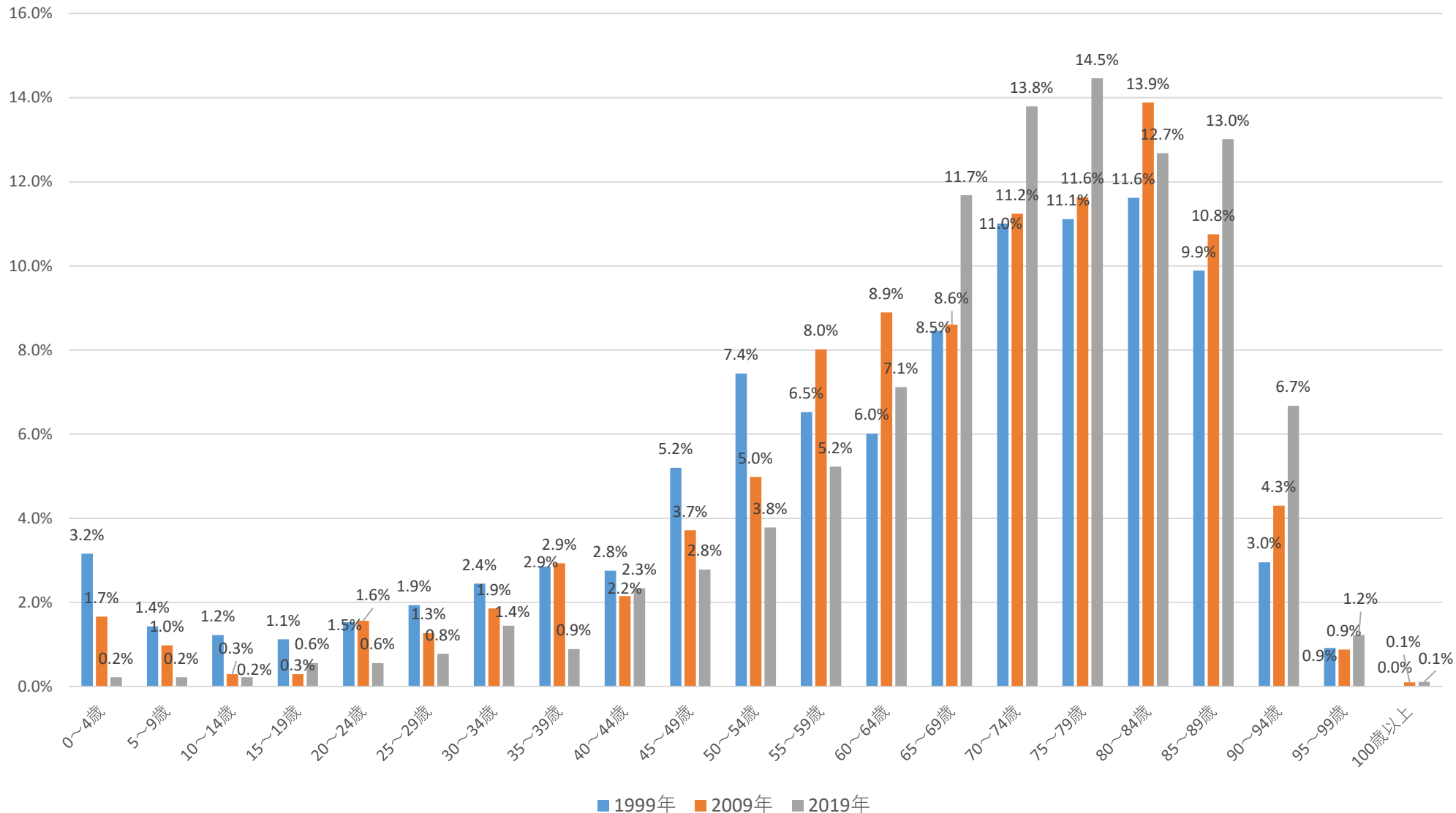
年齢区分別（国勢調査ベース）人口構成比



※1999年については90歳以上の合計値を90～99歳の区分に計上

1999年からの20年間で高齢化が進展していることが分かる。

年齢区分別（国勢調査ベース）住宅火災死者構成比

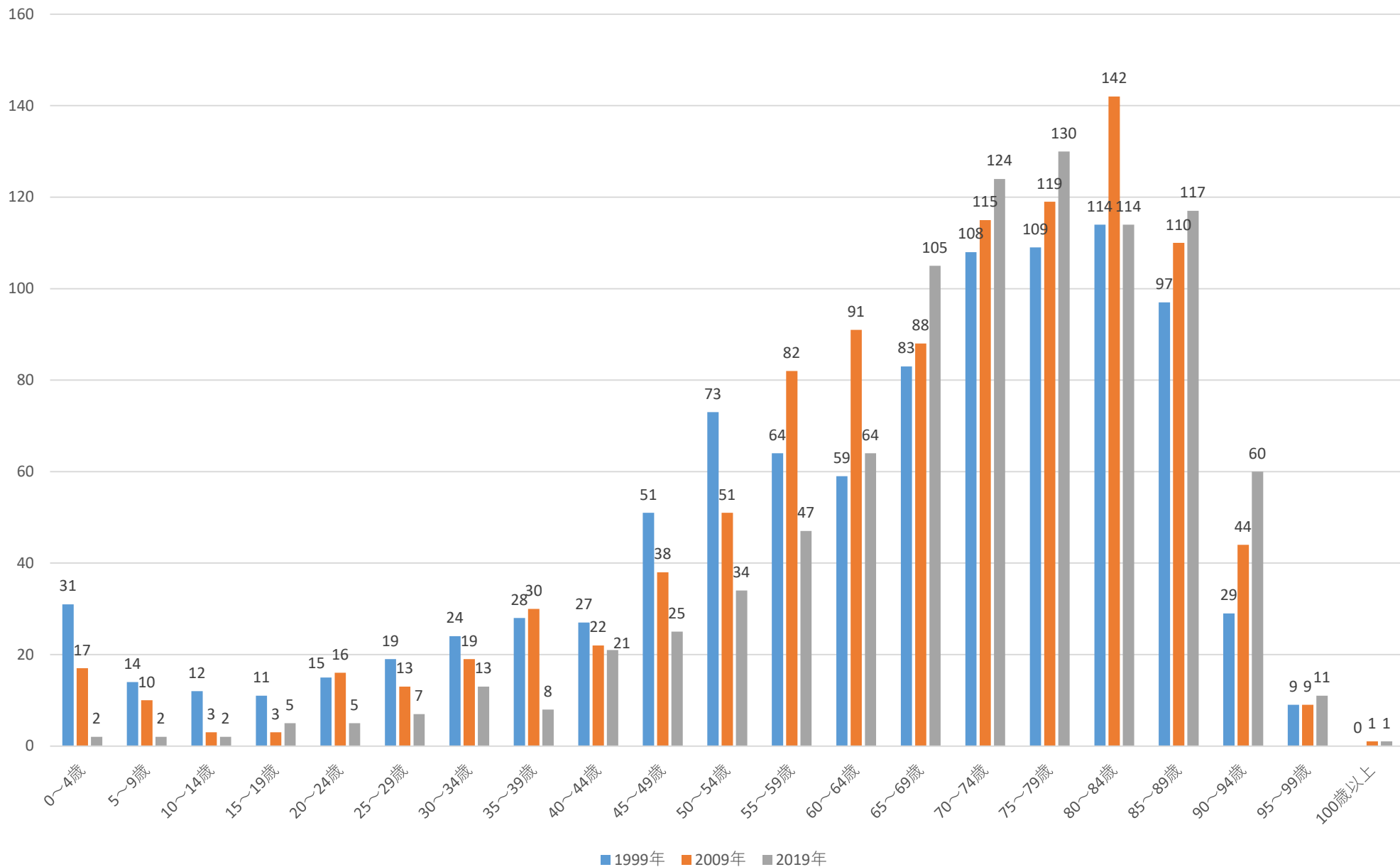


○いずれの時期でも高齢者の方が割合が高い傾向にある。

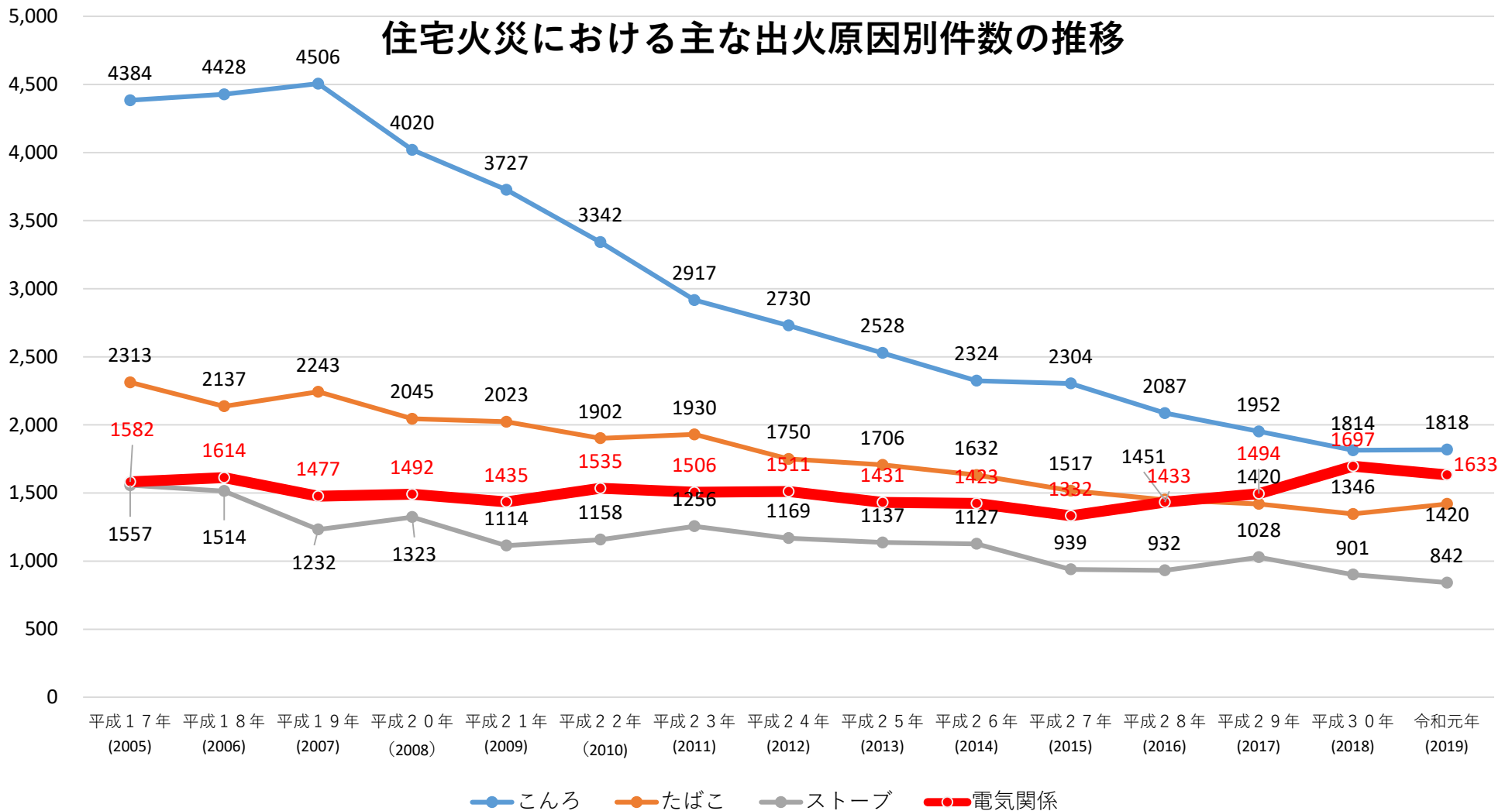
○2019年には1999年に比べ高齢者の死者の割合が高いが、P3の人口構成比の傾向よりも顕著であるため、人口比以外の要因があると考えられる。

(人)

年齢区分別（国政調査ベース）住宅火災死者数



住宅火災における主な出火原因別件数の推移

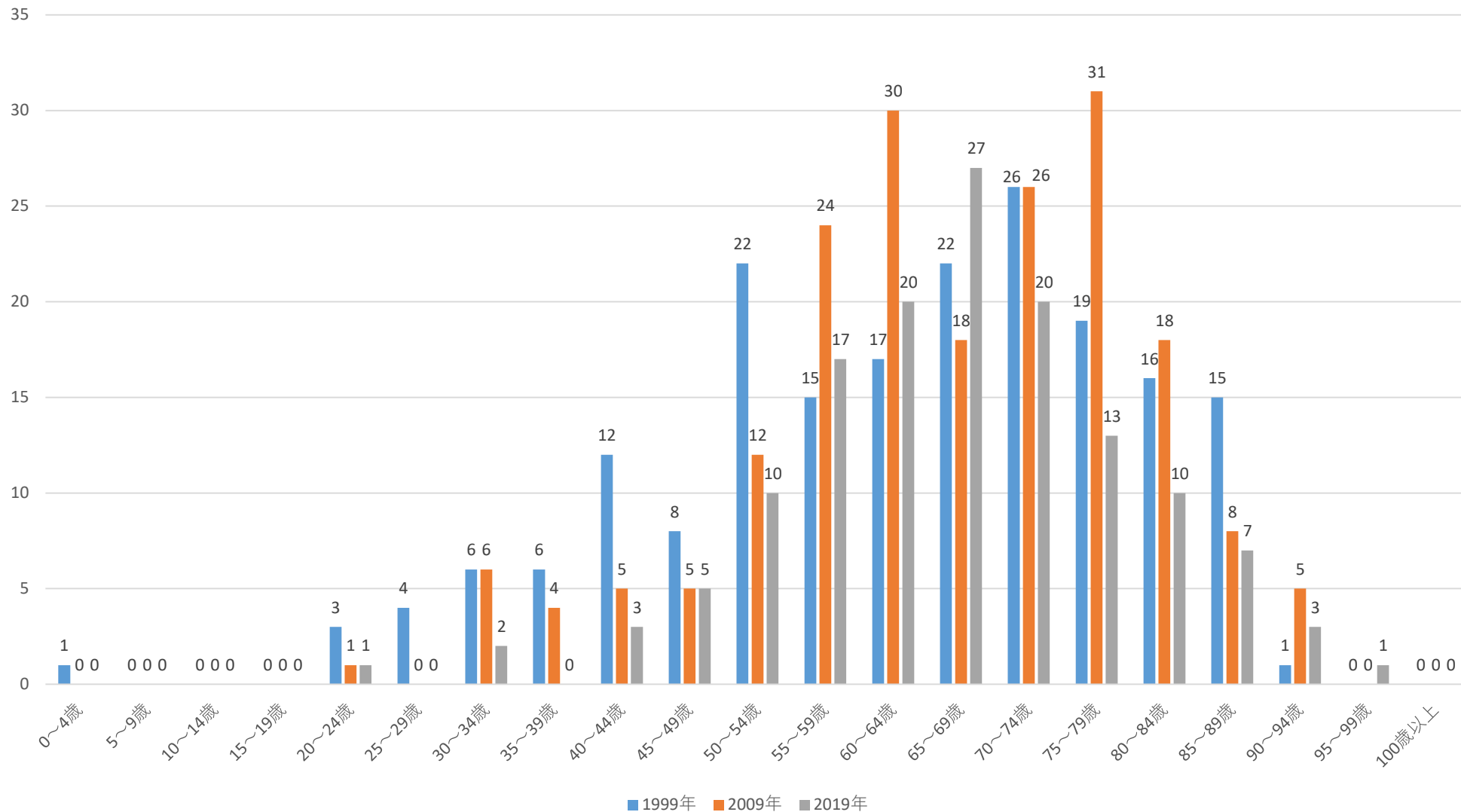


※電気関係：出火原因が「電灯・電話等の配線」「配線器具（テーブルタップ等）」「電気機器」「電気装置（コンデンサ等）」の合計

平成17年と比較すると、こんろ、たばこ及びストーブが原因の火災件数は減少しているのに対して、電気関係の火災件数のみ横ばいで推移しており、近年では増加傾向にある。

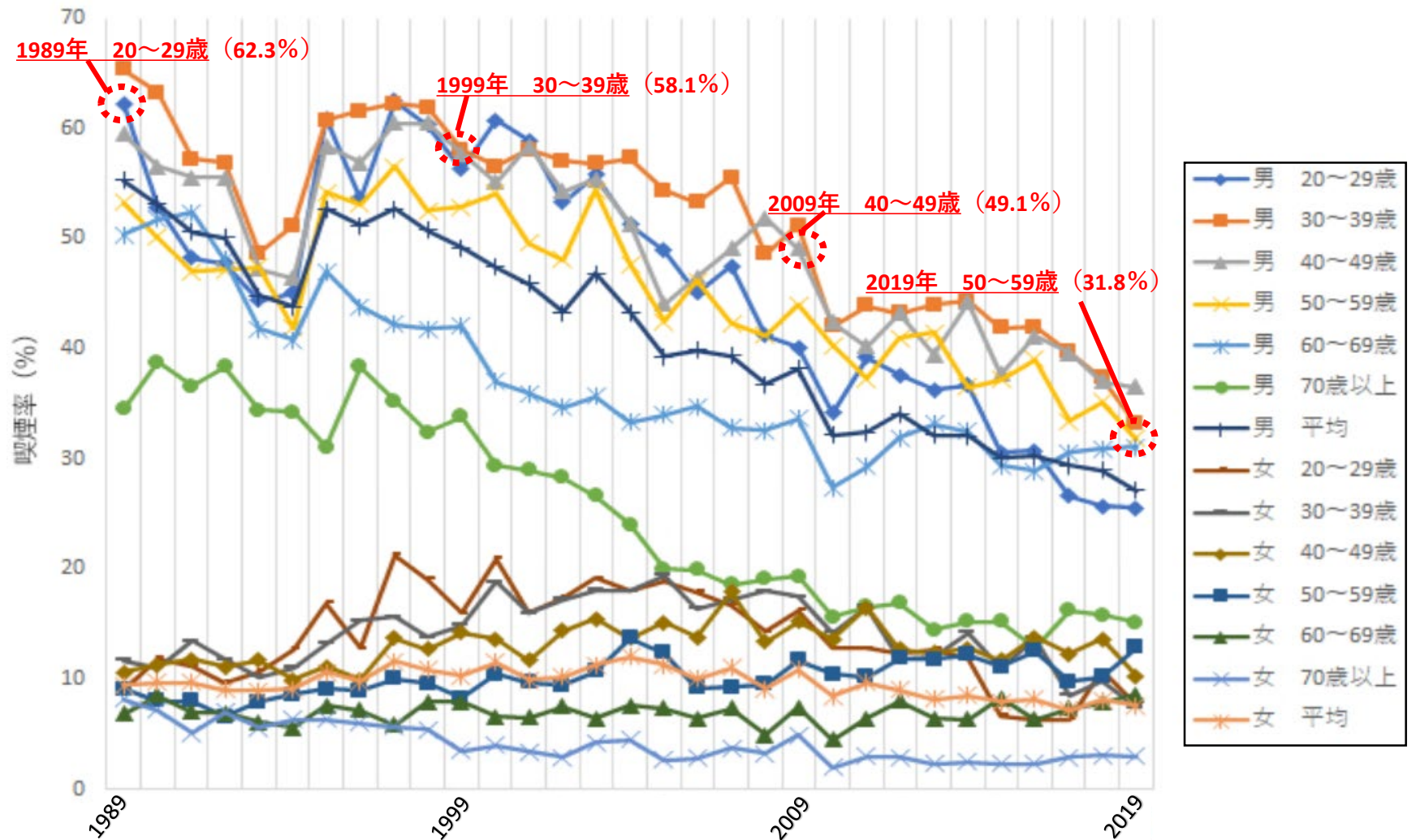
出火原因別死者数「たばこ」

(人)



○1999年、2009年が比較的幅広い年齢層で死者が発生しているのに比べ、2019年ではピークが65～69歳で顕著であり、それ以降は全体的にたばこによる死者数は減少する傾向がある。

性別・年代別喫煙率の推移

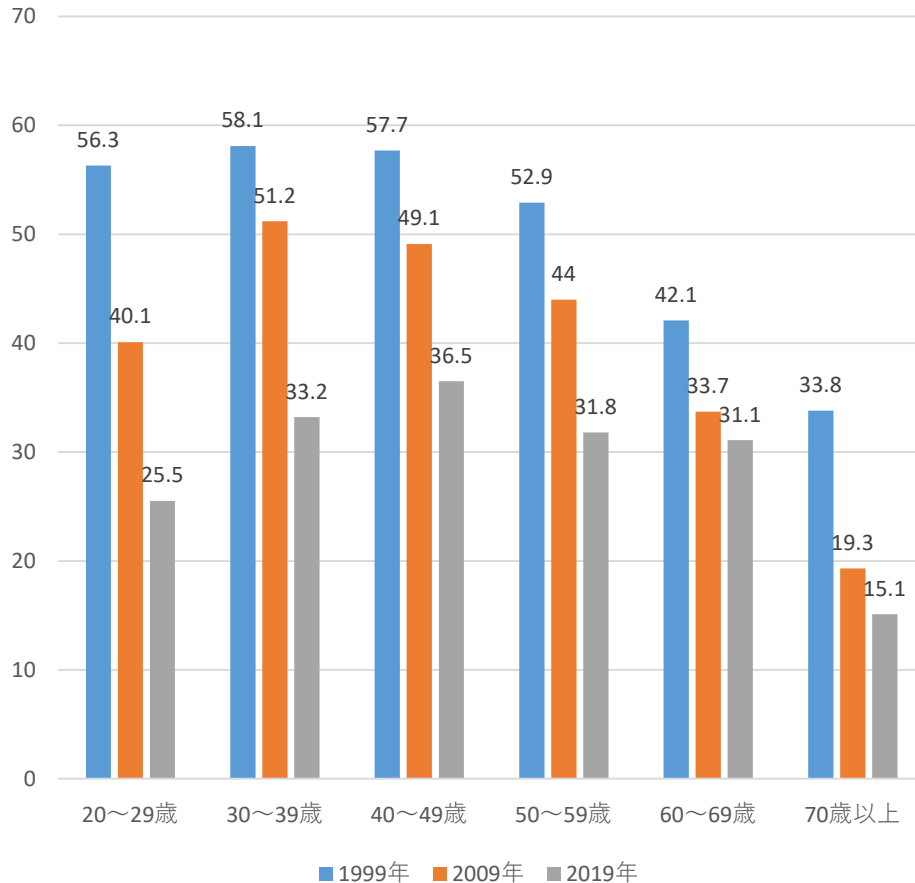


厚生労働省国民健康・栄養調査より

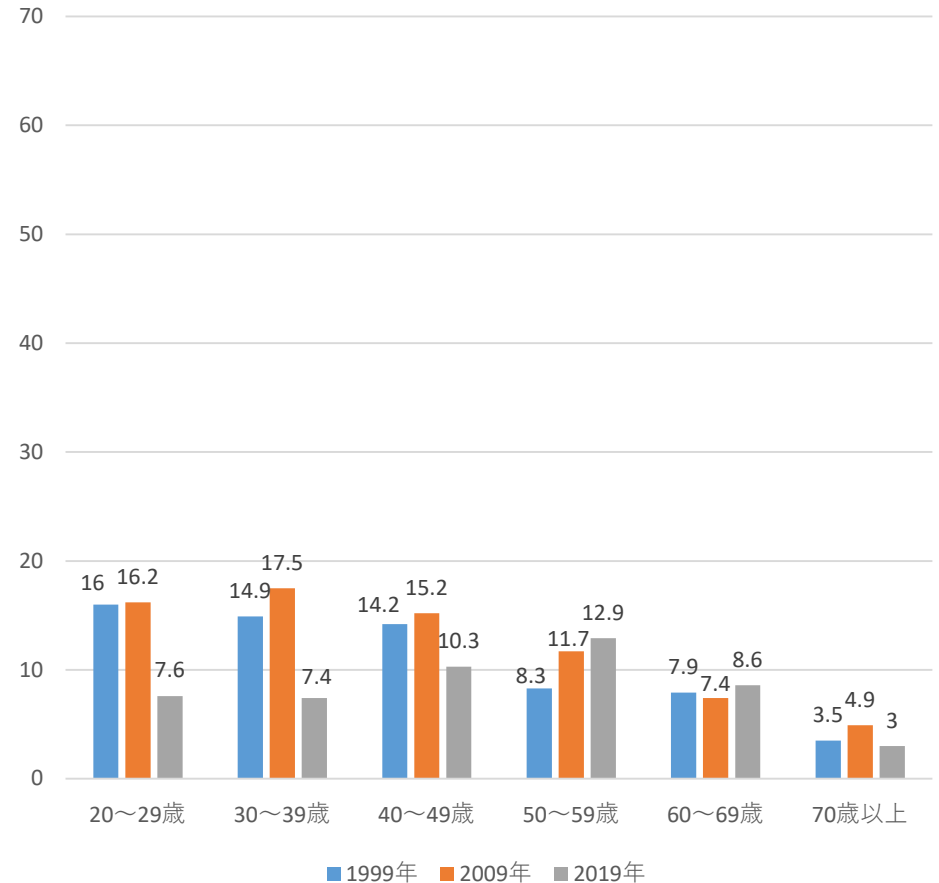
- 近年では、若年層の喫煙率は他の年代に比べて低くなっている。
- 同一の母体（1989年に20～29歳）と比較してもこの30年で喫煙率は半減している。

現在習慣的に喫煙している者の割合 (1999年、2009年、2019年の比較)

【男性】



【女性】

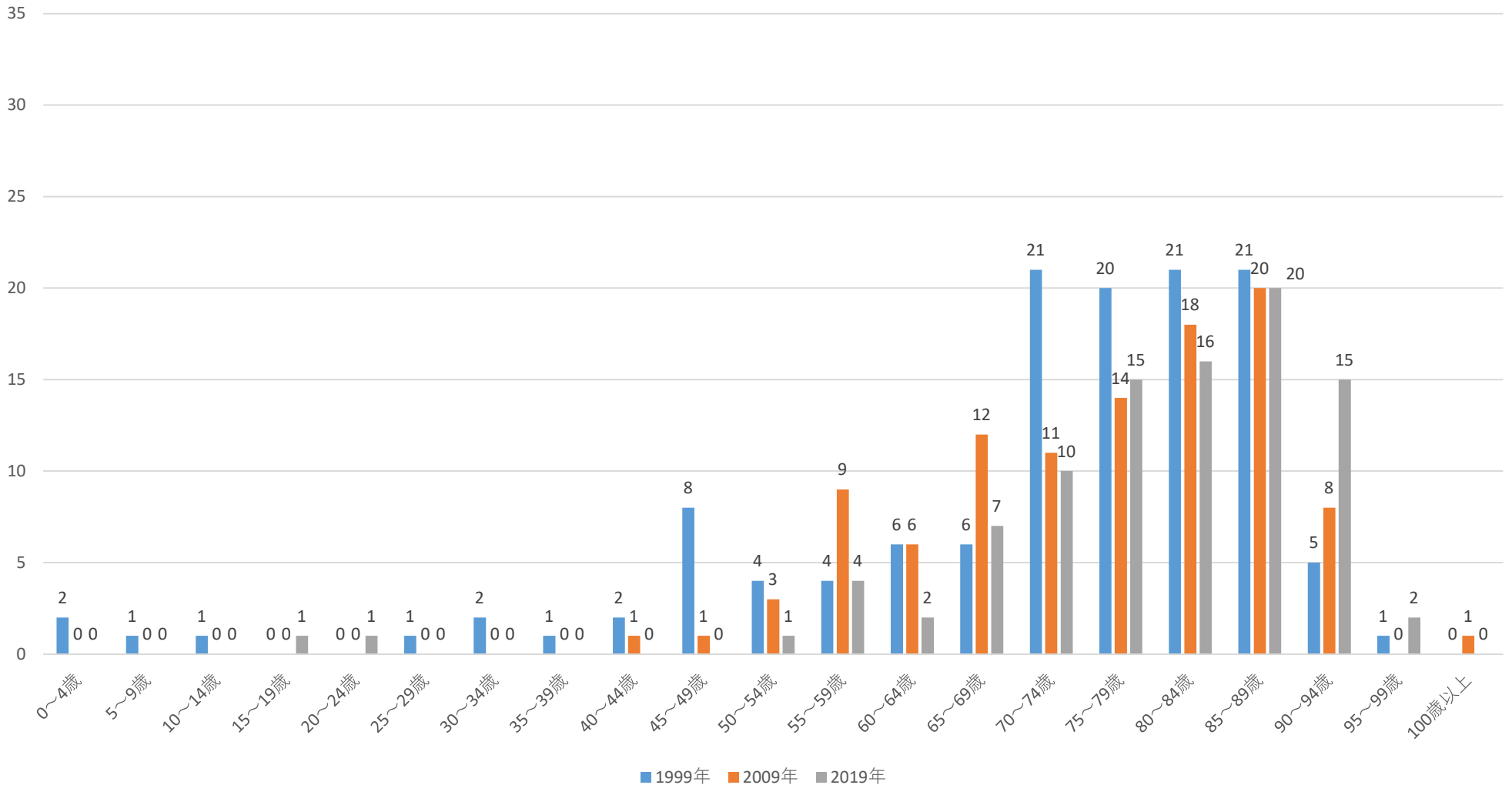


厚生労働省国民健康・栄養調査より

○男性はどの年代でも大きく減少している一方で、女性は50歳以上で喫煙率は増加しているがいずれもピークも移動していることから、特定の年齢での喫煙率が高いということではなく、特定の年代（1999年で30～39歳の年代）での喫煙率が高いと考えられる。

(人)

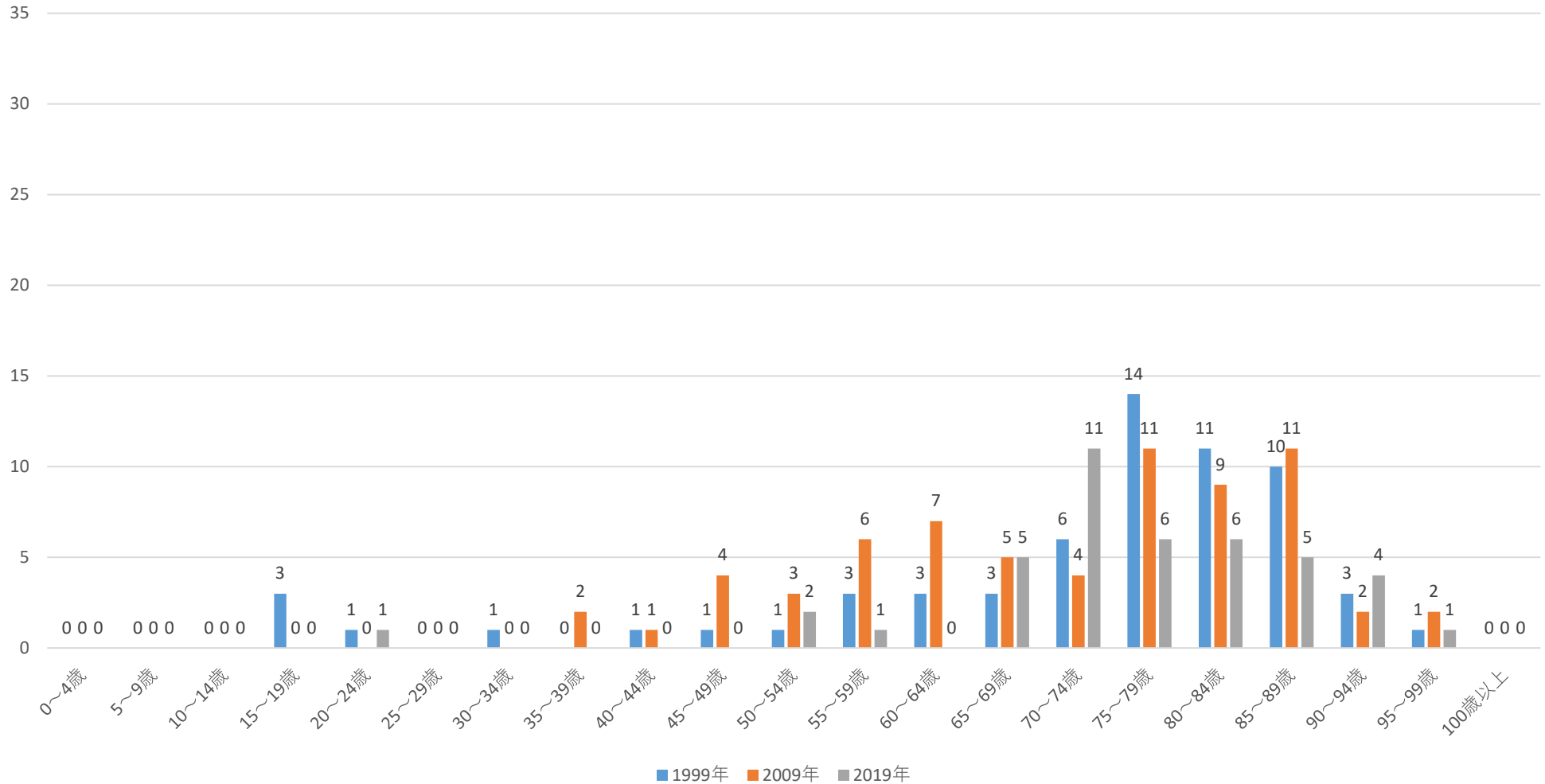
出火原因別死者数「ストーブ」



○ストーブによる火災においては、特に2019年では高齢化に伴い、人口自体は減少しているにも関わらず死者が大きく増加している。

(人)

出火原因別死者数「こんろ」

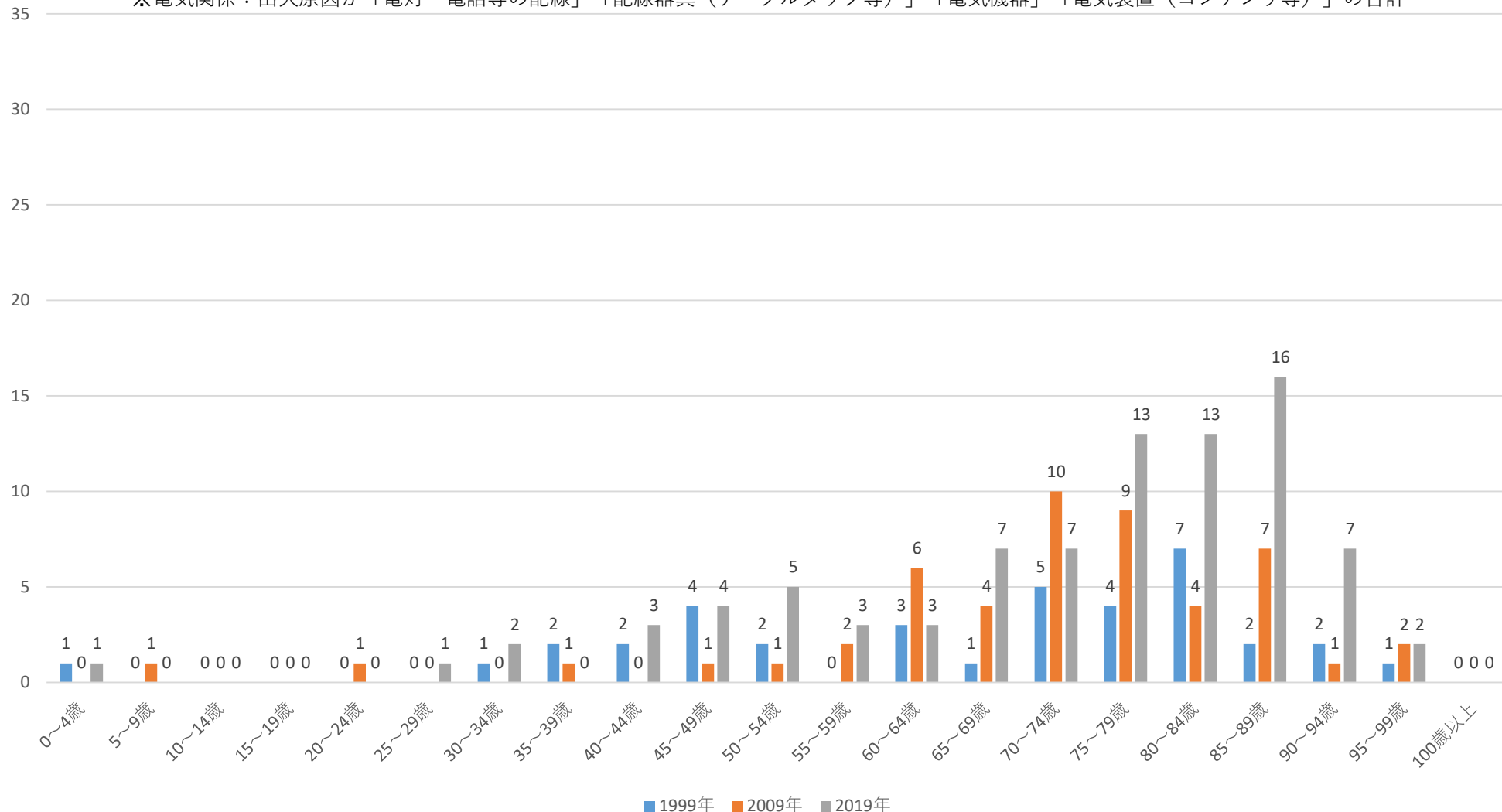


○こんろによる火災においては、特に2019年では70～74歳での死者が一番多く、高齢化すると減少に転じる傾向がある。

(人)

出火原因別死者数「電気関係」

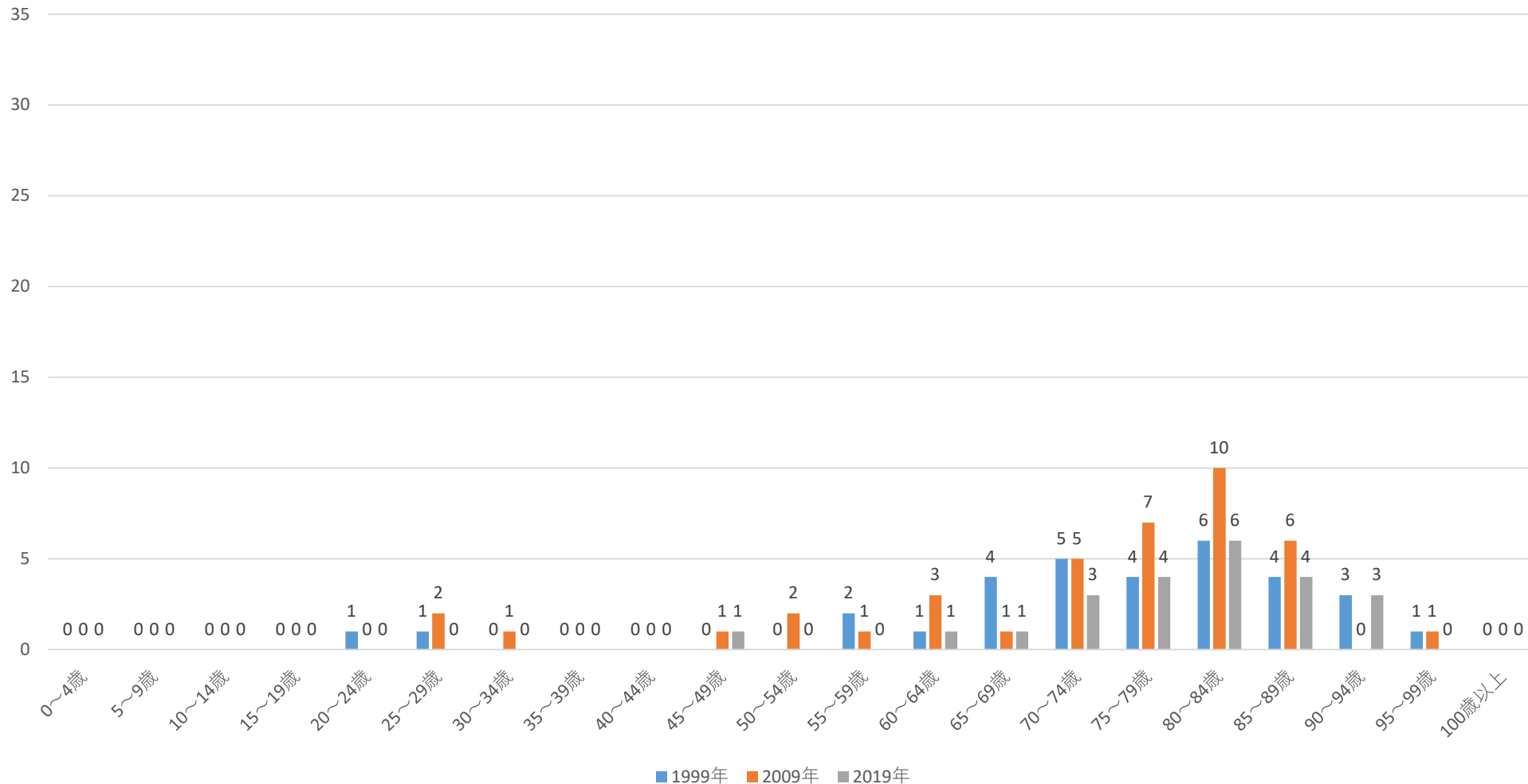
※電気関係：出火原因が「電灯・電話等の配線」「配線器具（テーブルタップ等）」「電気機器」「電気装置（コンデンサ等）」の合計



- 電気関係による火災においては、近年死者数が増加していることが分かる。
- また、以前よりも死者数のピークが高齢化している。

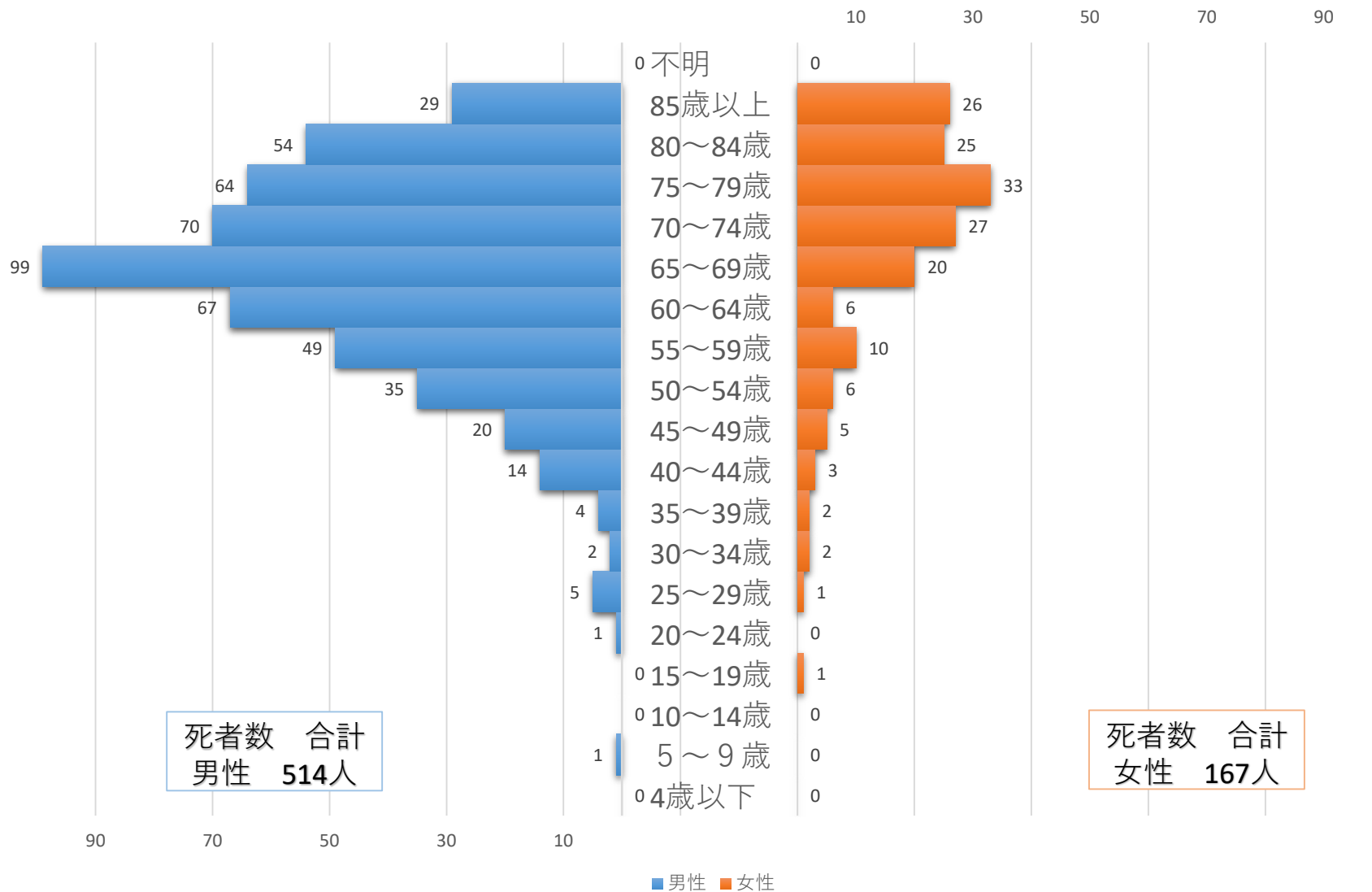
(人)

出火原因別死者数「灯火」



○灯火による火災については、1999年と2019年を比べても大きな違いは見受けられない。

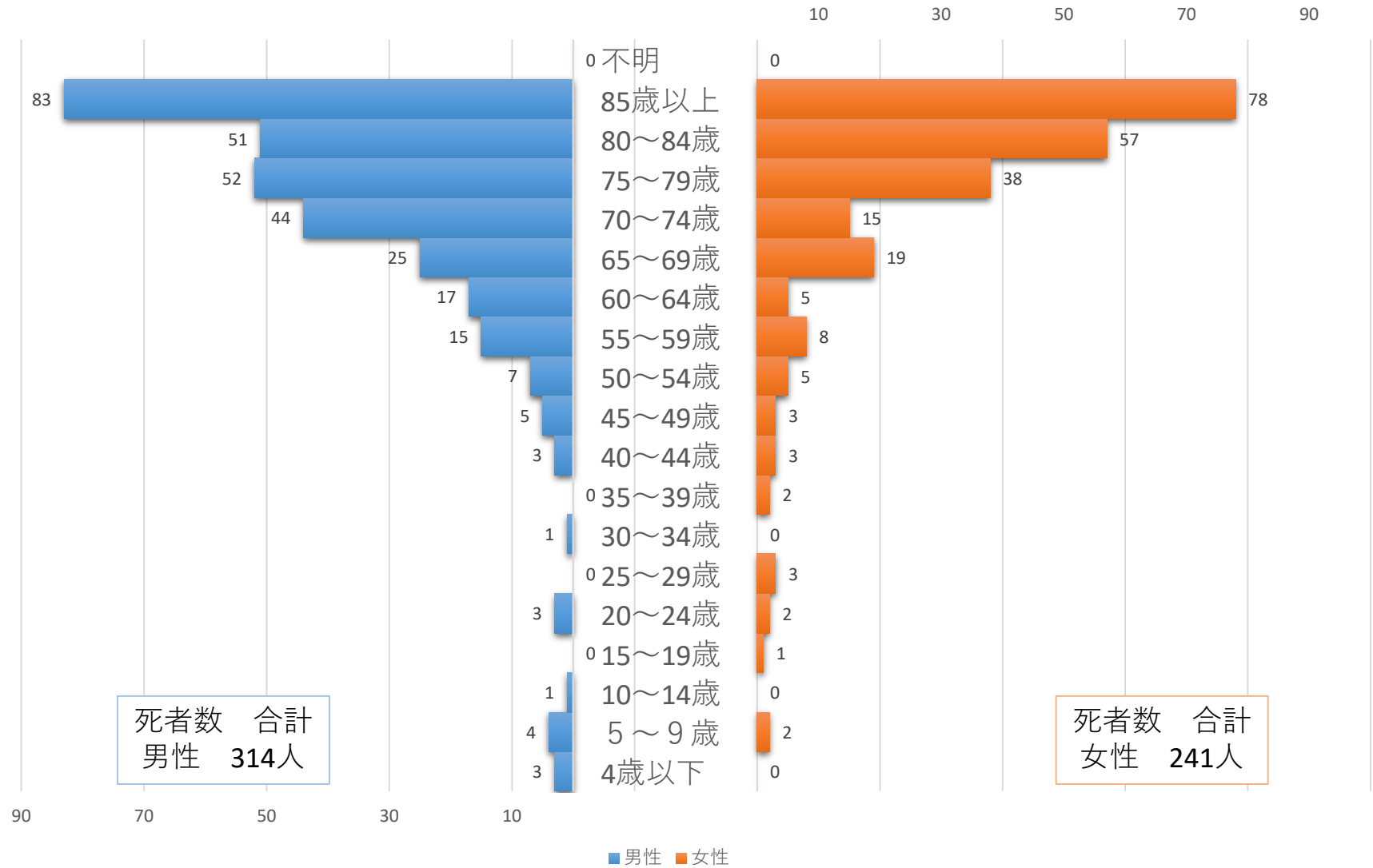
出火原因別死者数 「たばこ」 2014～2018年合計



○たばこによる火災における死者数では、男性が女性の3倍以上になる。

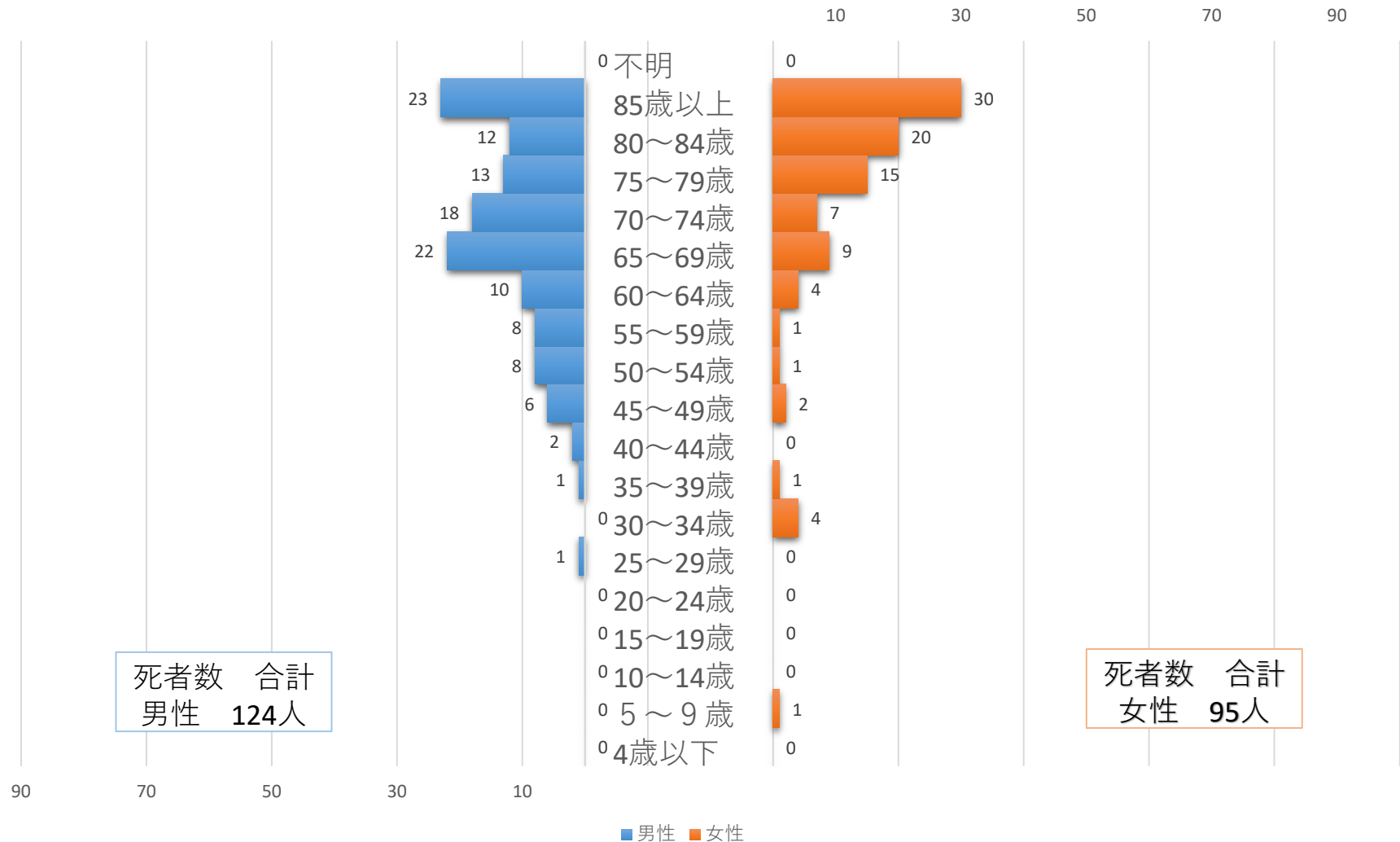
○男性の死者数のピークが65～69歳であるのに比べて、女性は明確なピークが見られない。

出火原因別死者数 「ストーブ」 2014～2018年合計



- ストーブによる火災における死者数は、高齢化に従い増加する傾向がある。
- 死者数が大きく増加する年齢は、男性の方が女性よりも若いことが分かる。

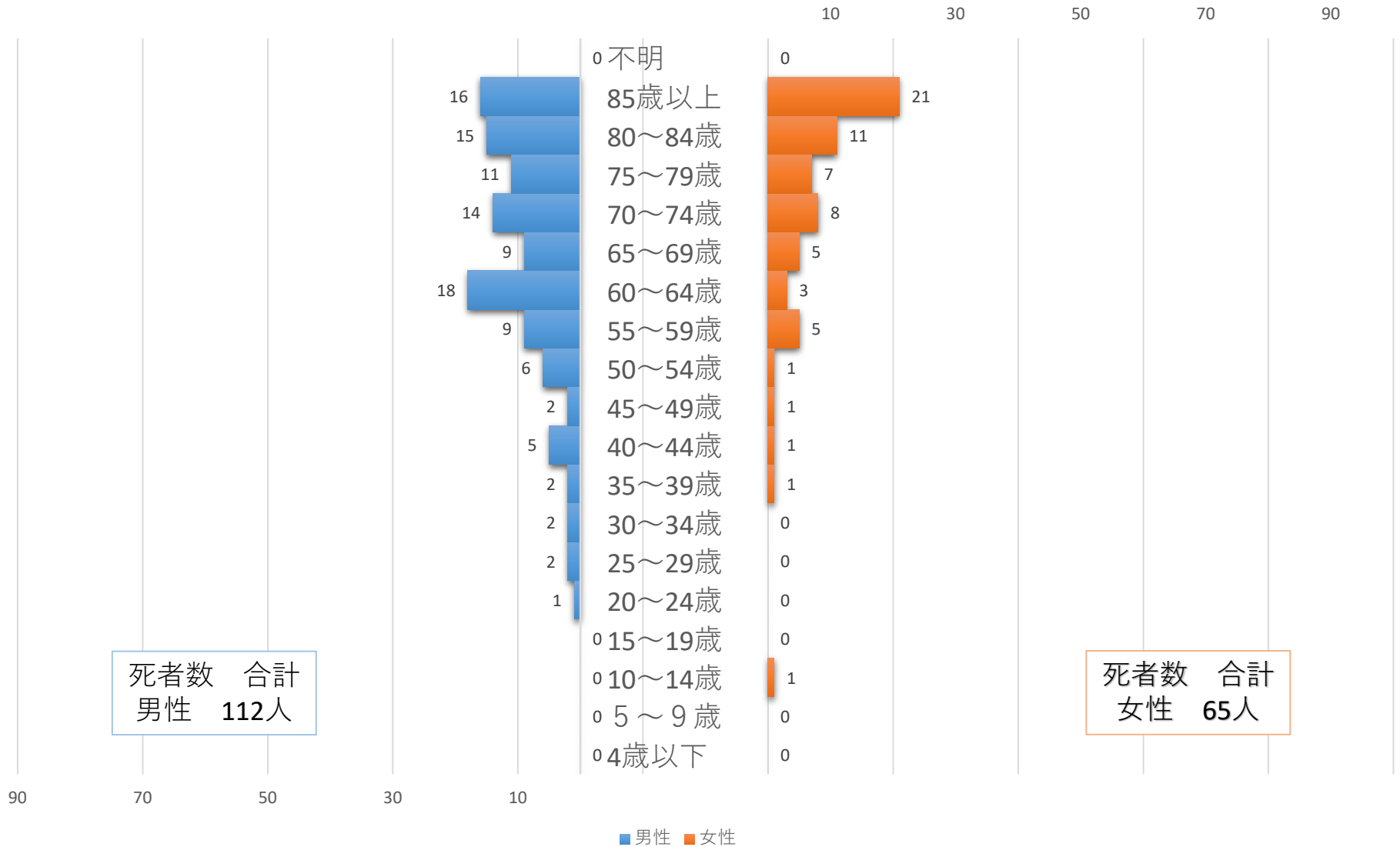
出火原因別死者数 「こんろ」 2014～2018年合計



○こんろによる火災における死者数は、男性では65～69歳で大きく増加してから減少に転じるのに比べて、女性では、高齢化に従って増加する傾向がある。

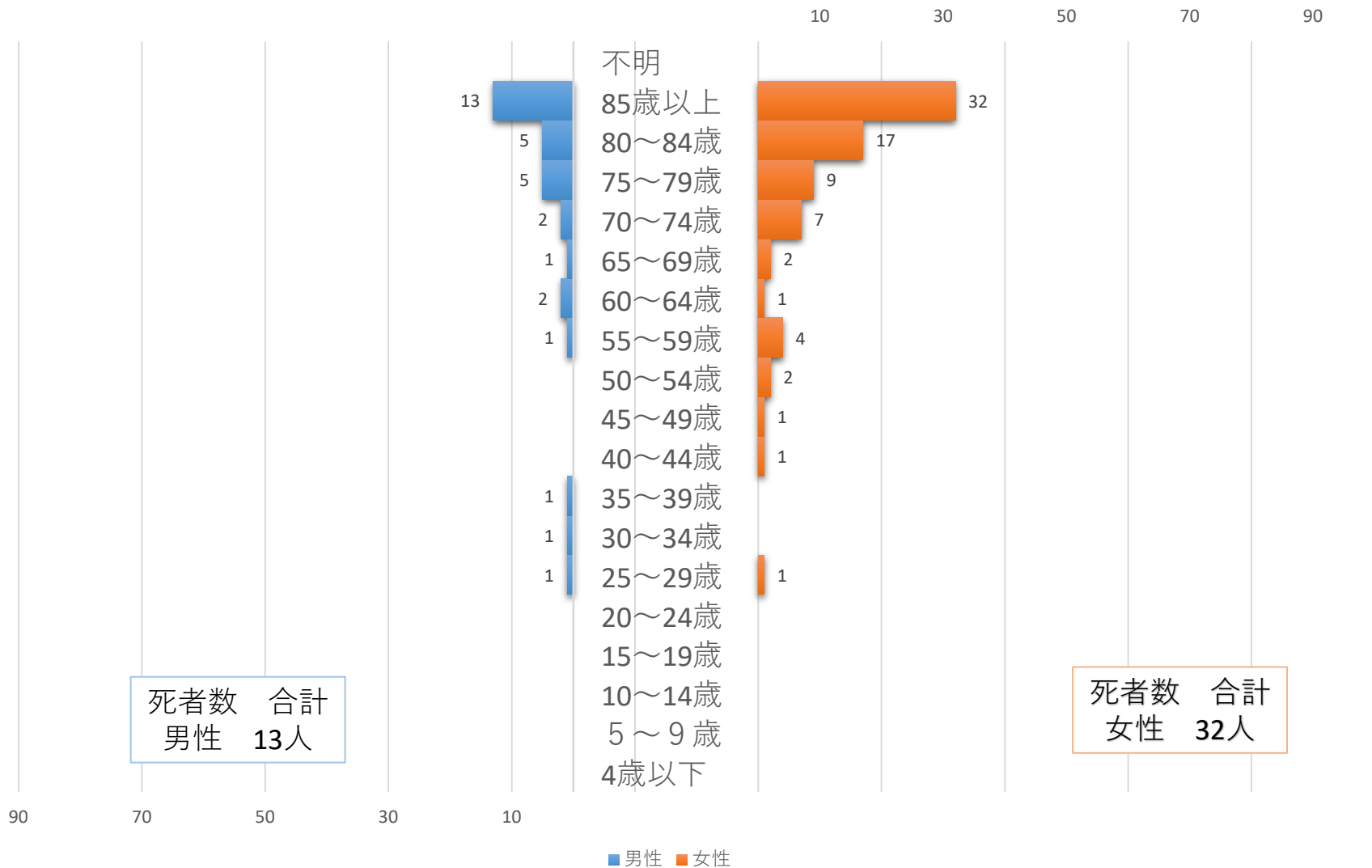
出火原因別死者数 「電気関係」 2014～2018年合計

※電気関係：出火原因が「電灯・電話等の配線」「配線器具（テーブルタップ等）」「電気機器」「電気装置（コンデンサ等）」の合計



○電気関係による火災における死者数は、男性では60～64歳で大きく増加してから減少に転じるのに比べて、女性では、高齢化に従って増加する傾向がある。

出火原因別死者数 「灯火」 2014～2018年合計



死者数 合計
男性 13人

死者数 合計
女性 32人

- 灯火による火災における死者数は、男性よりも女性の方が多い。
- 高齢化するに従い、男性と女性の差異が大きくなる傾向がある。

まとめ

たばこ

- たばこの喫煙率は年齢層だけではなく、性別や世代によっても異なるため、現時点の年齢別の死者数のみではなく、それがどのように推移していくかを分析する必要がある。
- 現在の死者数は65歳～69歳の男性が多いが、今後この年代が高齢化することにより、死者数が増加する可能性もあるが、この世代の喫煙率を下げることや、火災になりにくいたばこに切り替えることで大幅に減少する可能性もある。

ストーブ

- ストーブによる死者数は、近年では全体としての死者数は減少しているため、引き続き安全装置付きの機器の利用促進などの対策を進めることが重要。
- 高齢化に従い、男女ともに死者が増加しているため、特に高齢者におけるストーブの利用方法や、ストーブの周りの整理整頓などを重点的に点検することで、死者をより減少させることが出来ると考えられる。

こんろ

- こんろによる死者数は、男女で傾向が異なる。女性は高齢化に従って死者数が増加するのに比べて、男性では65～69歳で急に死者数が増加する。
- これは、定年退職などで料理をするようになるなど、生活習慣が変わることに起因しているのではないかとと思われる。

電気関係

- 電気関係による死者数は、他の要因と異なり近年増加傾向にあり、高齢化するに従い大幅に増加している。
- また、男性では60～64歳で急に死者数が増加しており、「こんろ」と同様に男性の生活習慣が定年等を契機に変化することに起因しているのではないかとと思われる。

灯火

- 灯火による死者数は、男性よりも女性の方が多く、高齢化に従ってその差は大きくなる。
- これは、男性よりも女性の方が平均寿命が長いため、配偶者を亡くした後、仏壇でのろうそくの利用が増えることなどに起因しているのではないかとと思われる。

2. 住宅火災における各年齢層の主な出火原因別死者

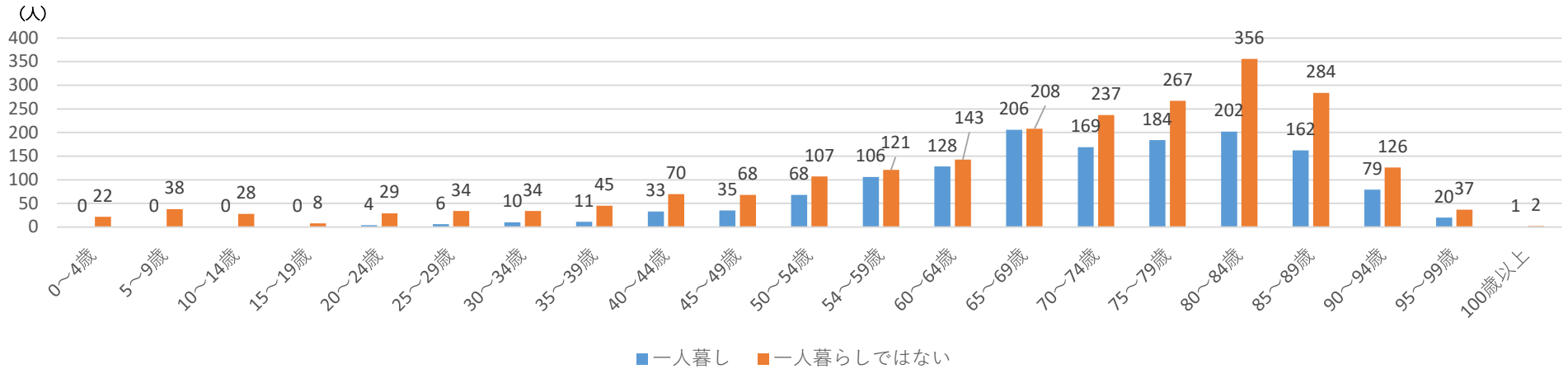
出火原因別住宅火災死者数（2014～2018年合計）

出火原因	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	54～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	合計
たばこ	0	1	0	1	1	6	4	6	17	25	41	59	73	119	97	97	79	33	19	3	0	681
ストーブ	3	6	1	1	5	3	1	2	6	8	12	23	22	44	59	90	108	97	48	16	0	555
こんろ	0	1	0	0	0	1	3	2	2	8	9	9	14	31	25	27	32	37	13	3	0	217
電気関係	1	1	4	1	4	3	2	5	8	5	19	15	25	26	30	45	57	53	26	5	0	336
灯火	0	0	0	0	0	2	1	1	1	1	2	5	3	3	8	14	22	24	19	2	0	108
こたつ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	4	6	6	5	8	7	1	0	42
マッチ・ライター	0	0	0	0	3	0	1	0	1	1	3	3	2	3	9	8	11	8	1	4	0	58

3. 独居・非独居別死者数

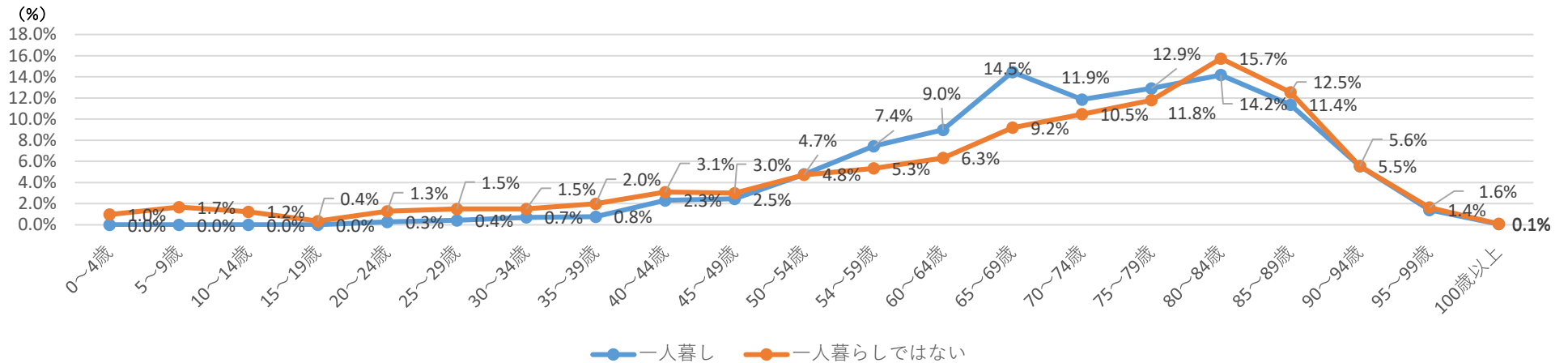
独居・非独居別死者数(2014～2018年合計)

住宅火災の死者数 (寝たきりではない)



※一人暮らしではない…家族別棟、家族留守 含む

年齢階層別構成比



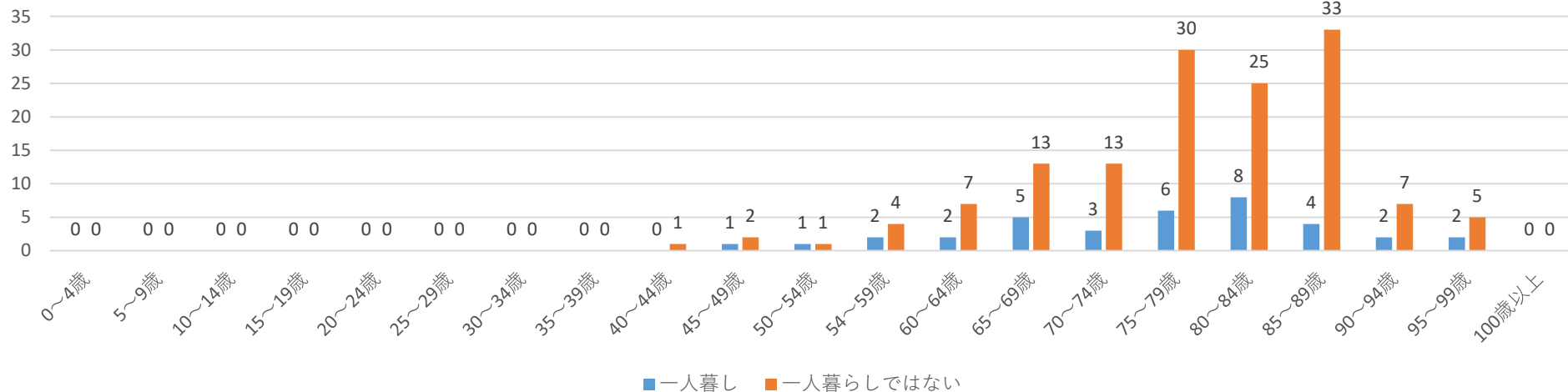
○全年齢層で一人暮らしではない死者が、一人暮らしの死者数を上回り、70歳以降その差は大きくなる。(ただし、それぞれの母数が異なるため、単純な比較は出来ない)

○比率で見た場合、65～69歳の一人暮らしの死者の割合が特に高い傾向がある。

(参考) 独居・非独居別死者数(2014～2018年合計)

住宅火災の死者数(寝たきり)

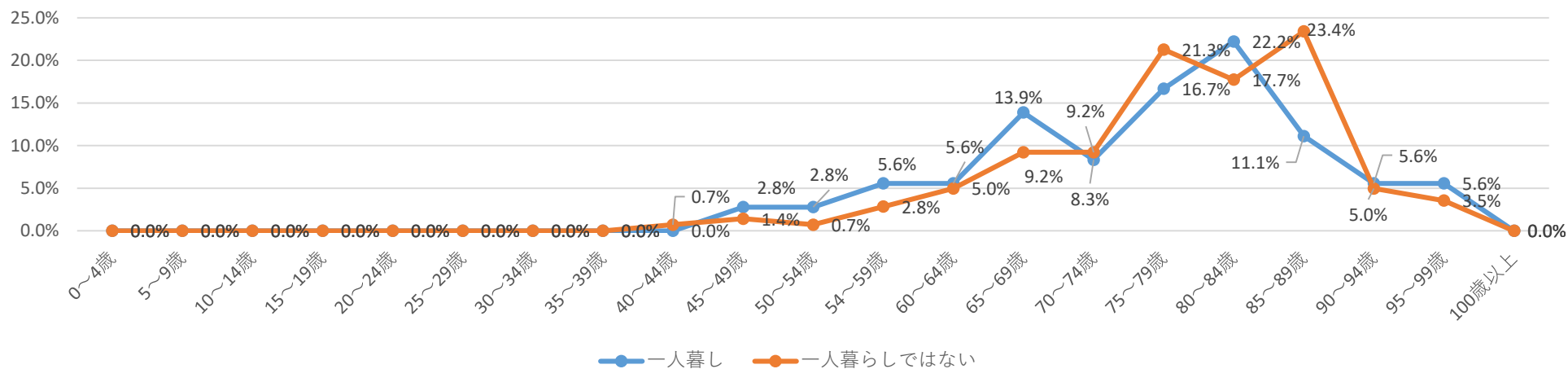
(人)



※一人暮らしではない…家族別棟、家族留守 含む

年齢階層別構成比

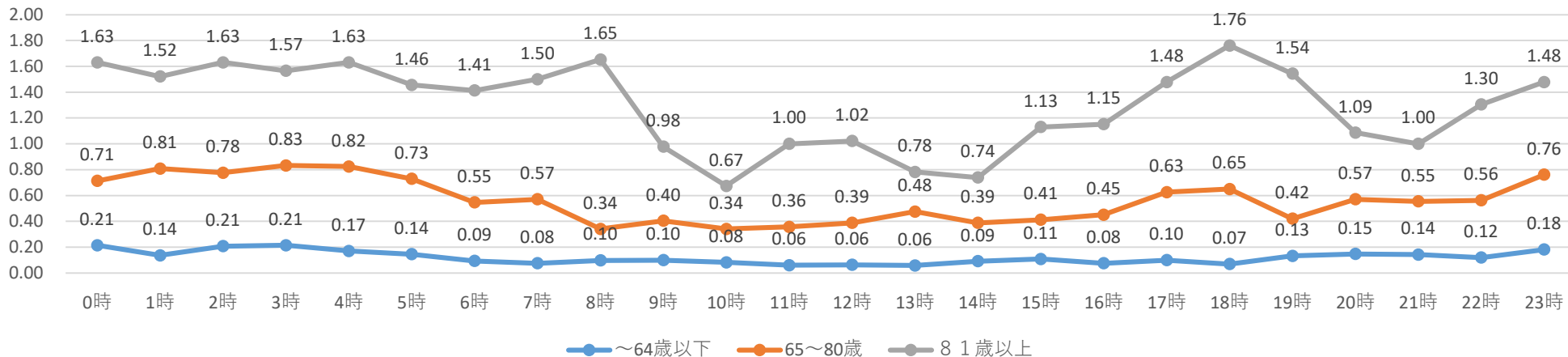
(%)



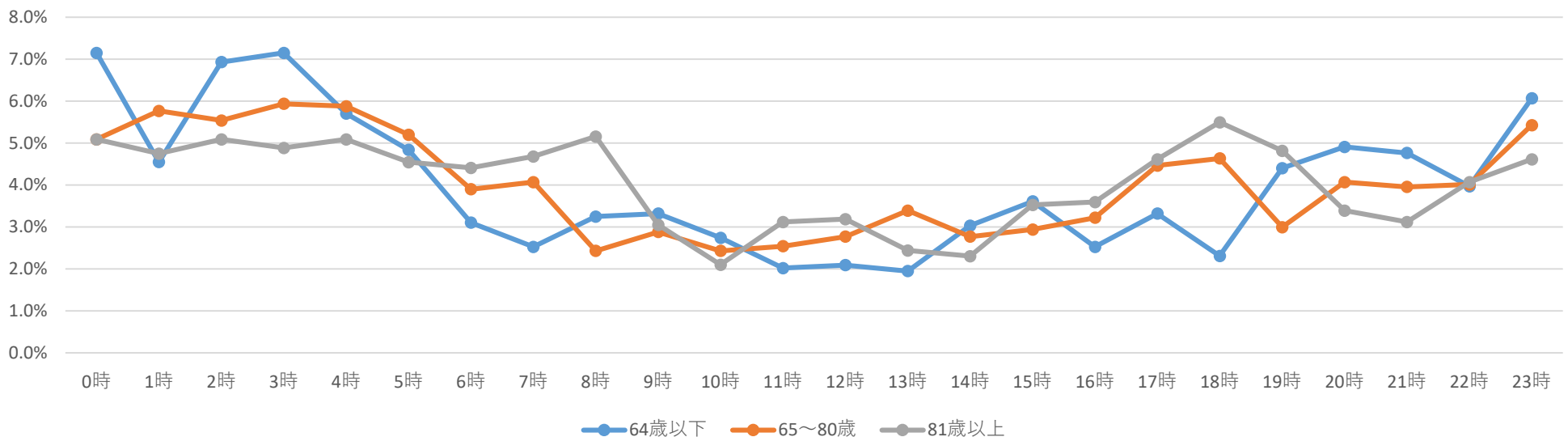
4. 出火時間帯別死者

出火時間帯別死者数人口比率

(人口1万人あたりの死者数)



出火時間帯別死者数割合 (各年齢層別)



○ 高齢者の方がいずれの時間帯でも死者数が多い。

○ いずれの年齢でも夜間・早朝の死者数割合が大きく、81歳以上では特に18時頃の死者数割合が大きい。

6. 第1号被保険者数と要支援・要介護認定者数の割合

介護保険事業

●第1号被保険者数（2月末現在）

第1号被保険者数は、3,522万人

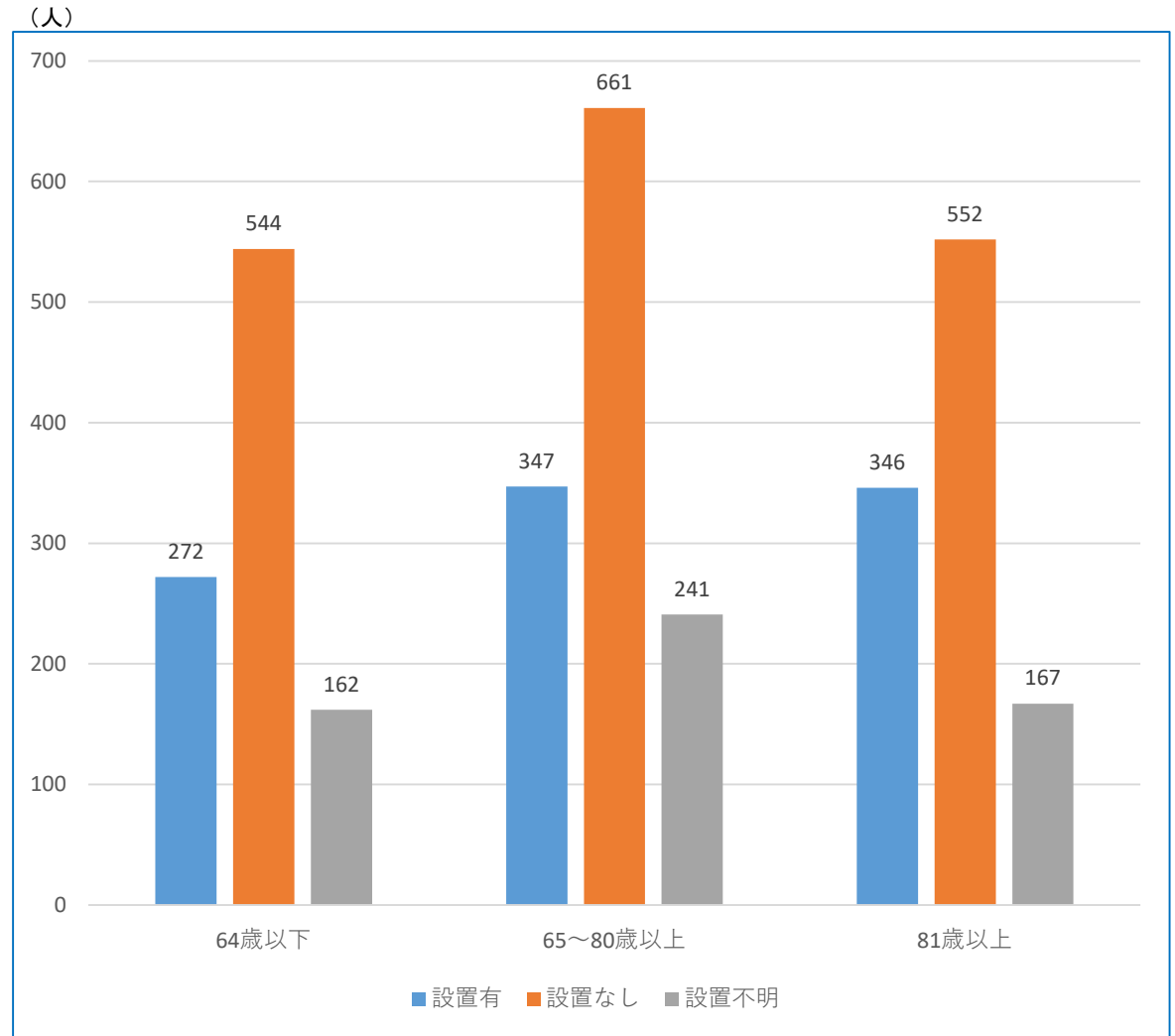
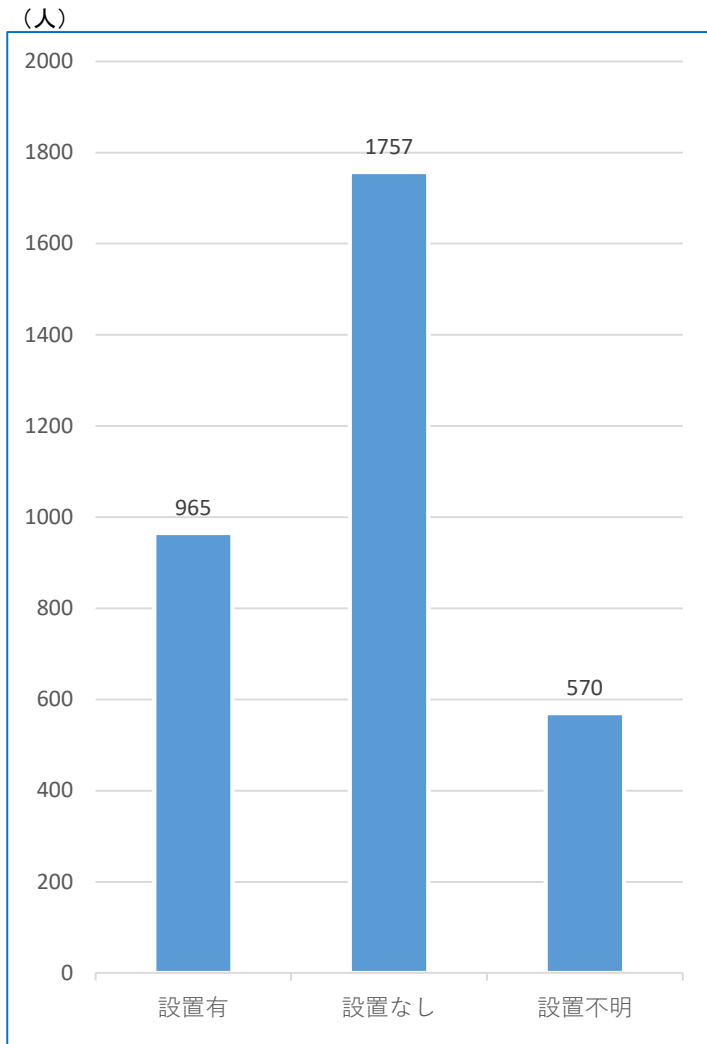
●要介護（要支援）認定者数（2月末現在）

要介護（要支援）認定者数は656.5万人（男性 206.2万人、女性 450.3万人）
第1号被保険者に対する65歳以上の認定者数の割合は、**約18.3%**

※厚生労働省HP 介護保険事業状況報告（暫定） 平成31年2月分

5. 死者が発生した住宅火災における住警器の設置・作動状況

死者が発生した住宅火災における住警器の設置・作動状況別死者数



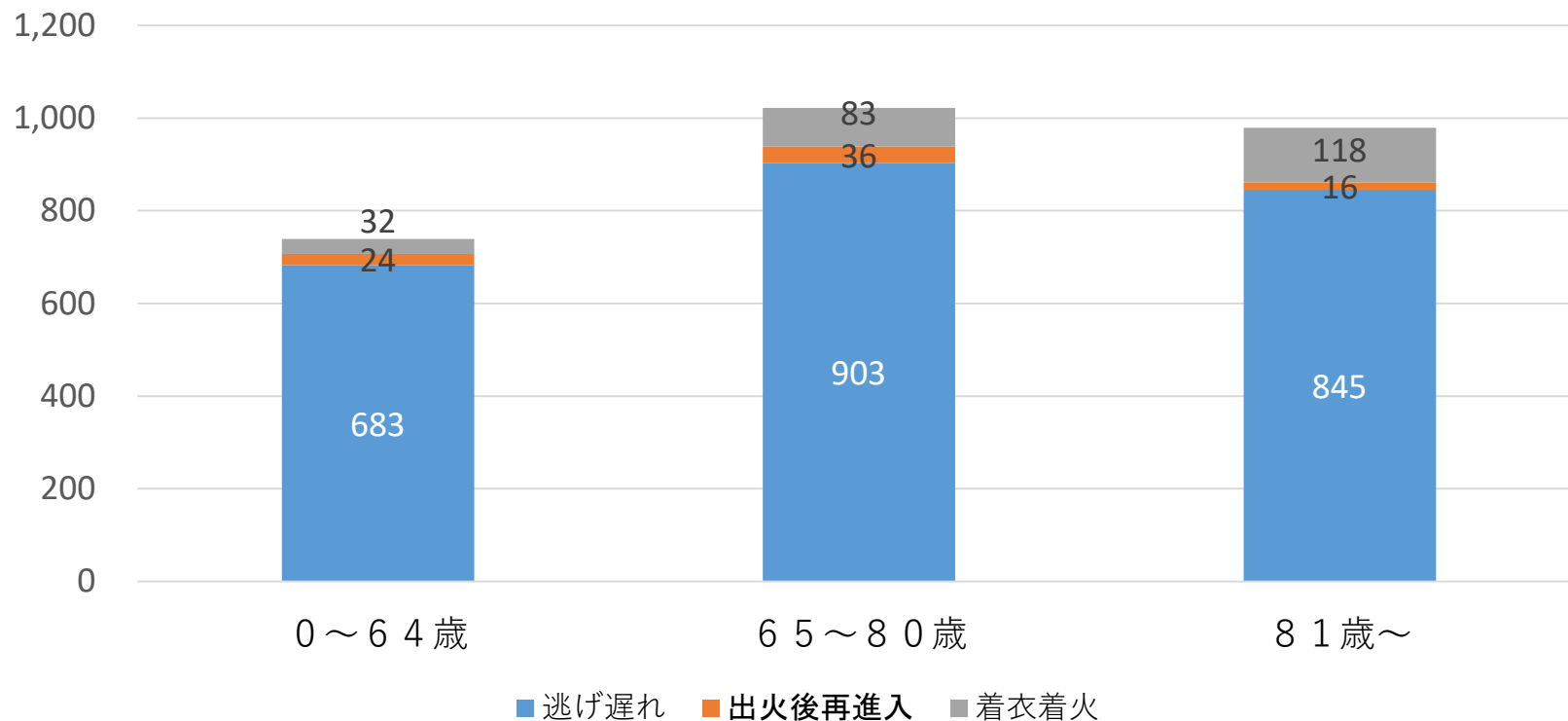
○住宅用火災警報器の設置率が8割超であることを踏まえると、設置されていない場合の死者数が非常に大きいことが分かる。(設置されていない2割弱の世帯における死者数が、設置されている8割強の世帯の約2倍に達している。)

○年齢層による傾向の違いは見られない。

6. 第1回検討部会 資料再掲

住宅火災における死者の発生した経過別死者数・割合

※平成26年（2014年）から平成30年（2018年）までの火災報告データから抽出・集計

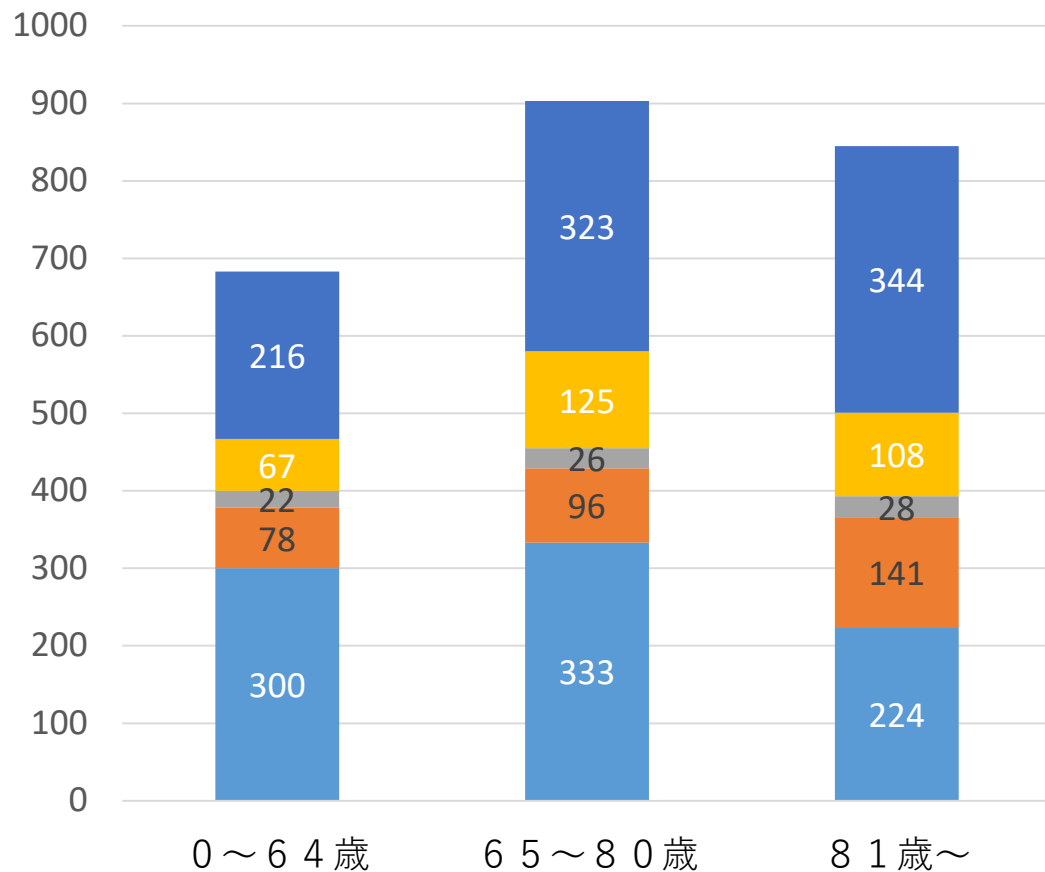


経過別	0～64歳	65～80歳	81歳～
逃げ遅れによるもの	92.4%	88.4%	86.3%
出火後再進入したもの	3.2%	3.5%	1.6%
着衣着火によるもの	4.3%	8.1%	12.1%

いずれの年齢層においても、逃げ遅れによる死者数の割合は**8割以上**を占めているが、高齢になるにつれ**着衣着火**による割合は増加する傾向にある。

「逃げ遅れ」の理由（中分類）別件数・割合

※平成26年（2014年）から平成30年（2018年）までの火災報告データから抽出・集計



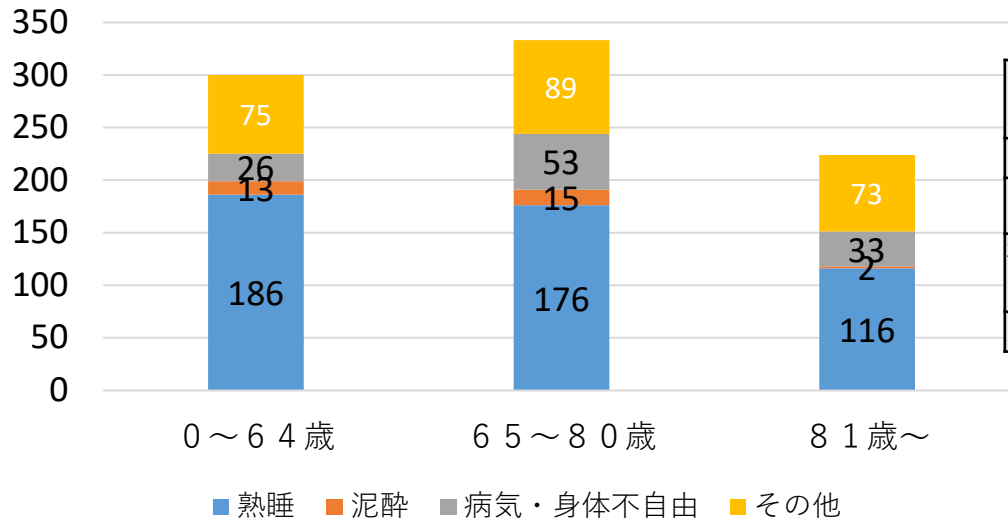
- 発見が遅れた
- 判断力・体力の低下等
- 逃げる暇がなかった
- 逃げる機会を失った
- 逃げ切れなかった

81歳以上の年齢層では、火災の発見の遅れによる割合よりも、**体力的条件、逃げる機会を失う、逃げ切れなかったといった、避難行動を起こしているものの何らかの理由により、逃げ遅れたもの**の割合が多い。

	0～64歳	65～80歳	81歳～
発見が遅れた (発見が遅れ、気づいた時は、火煙が回り、すでに逃げ道がなかったものと思われるもの(全く気づけなかった場合を含む))	43.9%	36.9%	26.5%
判断力・体力の低下等 (判断力に欠け、あるいは体力的条件が悪く、ほとんど避難できなかったと思われるもの)	11.4%	10.6%	16.7%
逃げる暇がなかった (ガス爆発等炎症拡大が早かったためほとんど避難できなかったと思われるもの)	3.2%	2.9%	3.3%
逃げる機会を失った (逃げれば逃げられたが、逃げる機会を失ったと思われるもの)	9.8%	13.8%	12.8%
逃げ切れなかった (避難行動を起こしているが、逃げ切れなかったと思われるもの(一応自力避難したが、避難中火傷、ガス吸引し病院等で死亡した場合を含む))	31.6%	35.8%	40.7%

「発見が遅れた」理由別件数・割合

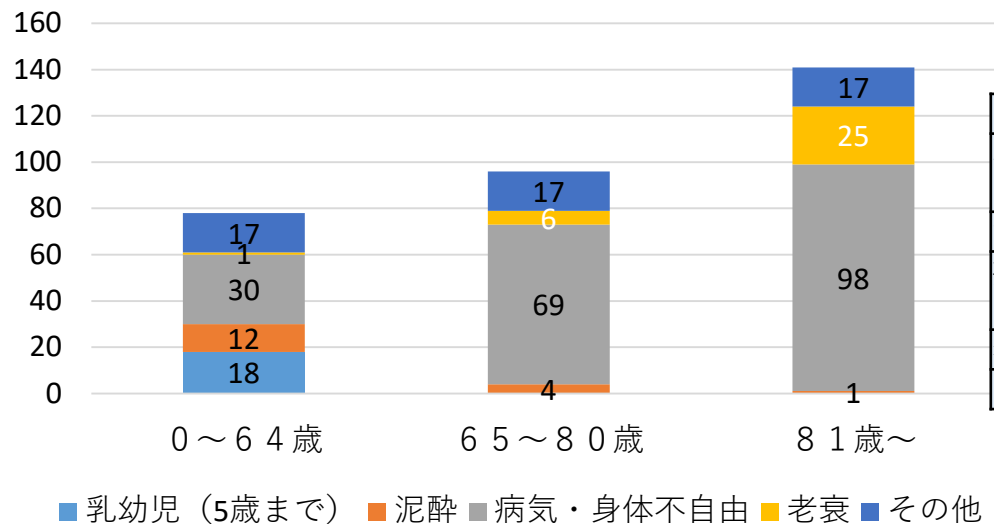
※平成26年（2014年）から平成30年（2018年）までの火災報告データから抽出・集計



	0～64歳	65～80歳	81歳～
熟睡	62.0%	52.9%	51.8%
泥酔	4.3%	4.5%	0.9%
病気 身体不自由	8.7%	15.9%	14.7%
その他	25.0%	26.7%	32.6%

高齢者層では**身体的特性**による割合が多い。

「判断力・体力の低下等」理由別件数・割合

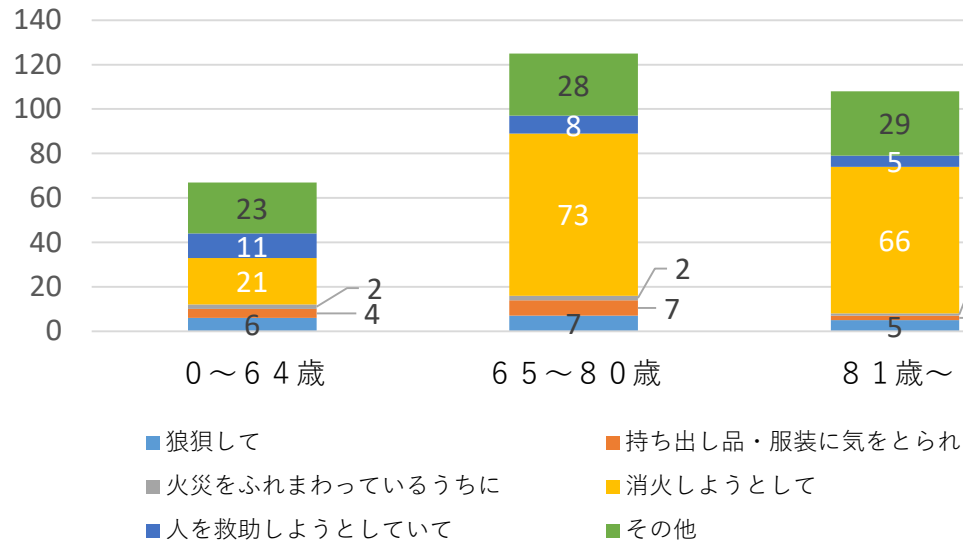


	0～64歳	65～80歳	81歳～
乳幼児 （5歳まで）	23.1%	—	—
泥酔	15.4%	4.2%	0.7%
病気 身体不自由	38.5%	71.9%	69.5%
老衰	1.3%	6.3%	17.7%
その他	21.8%	17.7%	12.1%

高齢者層では**身体的特性**による割合が多い。

「逃げる機会を失った」理由別件数・割合

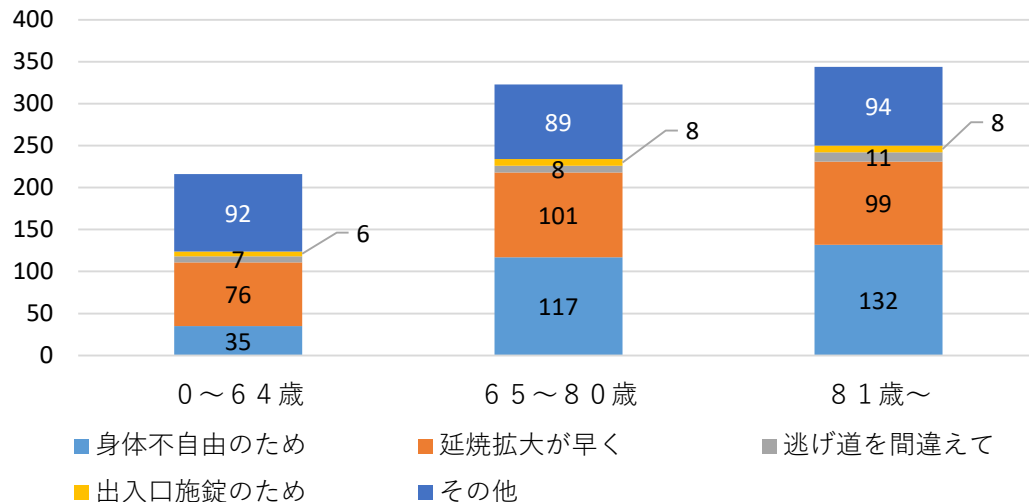
※平成26年（2014年）から平成30年（2018年）までの火災報告データから抽出・集計



	0～64歳	65～80歳	81歳～
狼狽して	9.0%	5.6%	4.6%
持ち出し品・服装に気をとられ	6.0%	5.6%	1.9%
火災をふれまわっているうちに	3.0%	1.6%	0.9%
消火しようとして	31.3%	58.4%	61.1%
人を救助しようとしていて	16.4%	6.4%	4.6%
その他	34.3%	22.4%	26.9%

高齢者層では、**消火しようとした**割合が過半数を占めている。

「逃げ切れなかった」理由別件数・割合

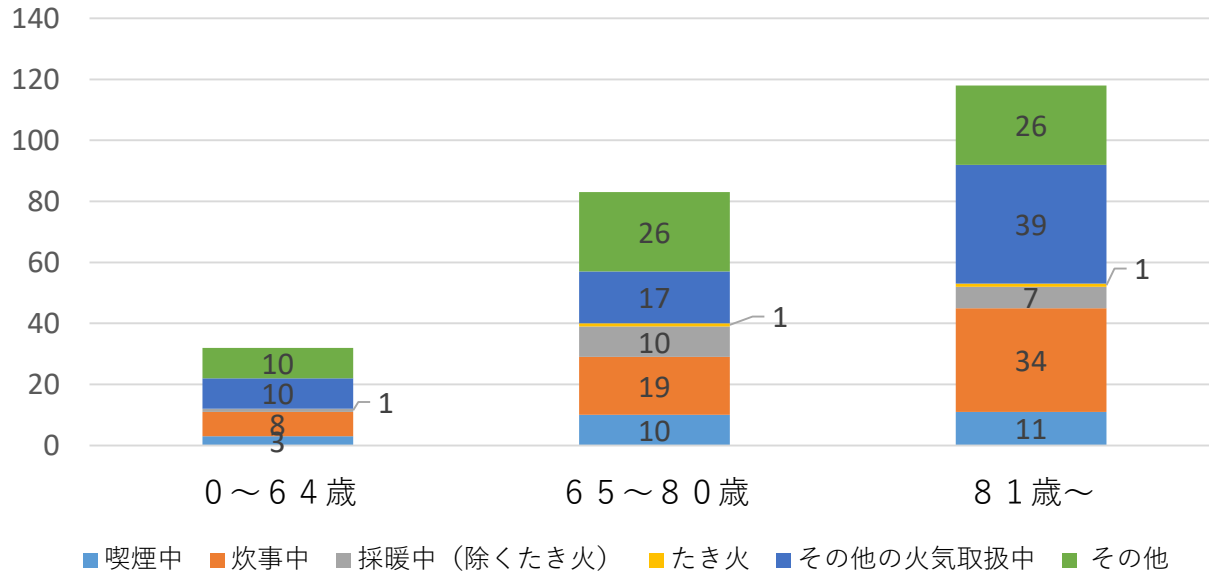


	0～64歳	65～80歳	81歳～
身体不自由のため	16.2%	36.2%	38.4%
延焼拡大が早く	35.2%	31.3%	28.8%
逃げ道を間違えて	3.2%	2.5%	3.2%
出入口施錠のため	2.8%	2.5%	2.3%
その他	42.6%	27.6%	27.3%

高齢者層では**身体的特性**による割合が多い。

「着衣着火」理由別件数・割合

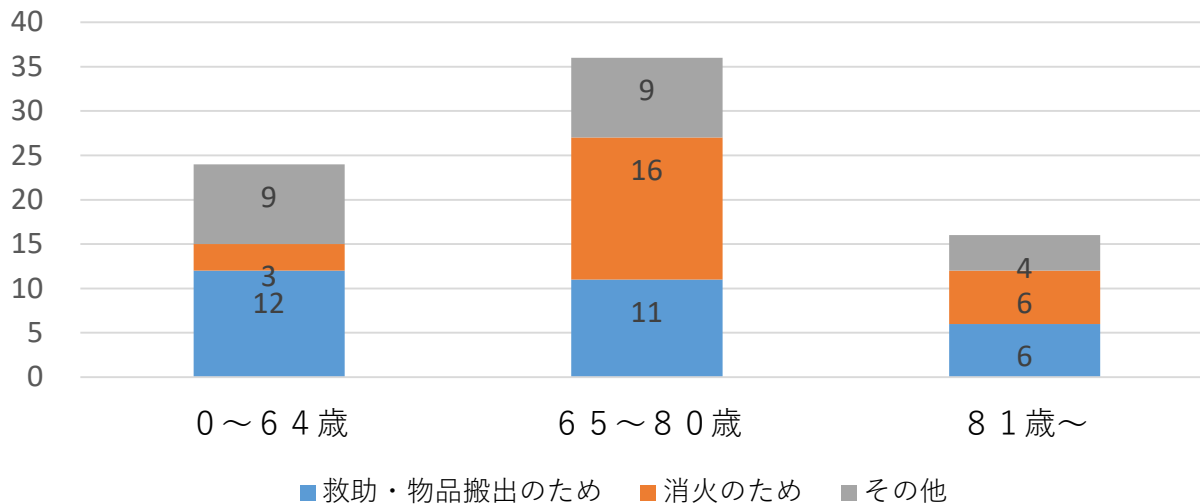
※平成26年（2014年）から平成30年（2018年）までの火災報告データから抽出・集計



	0～64歳	65～80歳	81歳～
喫煙中	9.4%	12.0%	9.3%
炊事中	25.0%	22.9%	28.8%
採暖中（除くたき火）	3.1%	12.0%	5.9%
たき火	0.0%	1.2%	0.8%
その他の火気取扱中	31.3%	20.5%	33.1%
その他	31.3%	31.3%	22.0%

高齢者層では、何らかの**火気取扱中**に着衣等に着火する割合が多い

「出火後再進入」理由別件数・割合



	0～64歳	65～80歳	81歳～
救助・物品搬出のため	50.0%	30.6%	37.5%
消火のため	12.5%	44.4%	37.5%
その他	37.5%	25.0%	25.0%

全体数が少ないものの、高齢者層では、**消火のため再進入する**割合が多い。